

秋声

しゅうせい

秋の声。秋風など、秋を感じさせる音の響き。

風やせせらぎなど自然の音ともかぎらず、人のたてる物音とも限らない。

具体的な音ばかりでなく、心の中に響いて来る秋の気配もまた秋の声でもある。

風雨や木の葉のそよぎなどの音に感じられる秋の気配があるように、畑のねぎたちが秋風にそよぐ様子に秋声を感じます。

秋晴れのまぶさ、お日ノ畑で背負った「葱」のシヤツの「葱」にも花言葉があり、「笑顔」「ほほえみ」そして「くだけない葱」。

収穫量が最盛期を迎える季節。ねぎ自体がまだ少し軽い時期でもあり、1日で収穫カゴ400杯以上、重さにして4t以上の収穫・荷運びを行います。体力的にもきついです。真夏を乗り切った農人たちにも少し余裕が出てきている様子。皆で協力して収穫を行っています。

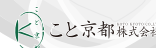
古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.185

2022年11月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP



今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

移り変わりの季節、秋葱のお届けです

丹後と京都市内で育ったねぎをお届けします。

丹後では、八月に一度根本カット収穫したねぎをもう一度伸ばしたものを、京都市内は、七月に定植したねぎを栽培したもの。今年の夏は、去年の冷夏と対象的で猛暑になりました。

盆地で、夏の栽培が最も難しく、ねぎも農人もなんとか耐えているという状況でした。十月以降は気候も良くなり、夏場に耐えたねぎはすくすく育ち、農人たちの努力と心遣いで、きれいなねぎに仕上げたものをお届けしていきます。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

冬葱に向けての最中、秋の所感

毎年の事ですが、9月から10月は冬ねぎ準備の勝負時期です。気温が落ち着いた9月下旬から10月初旬にかけて、1日2反ずつ定植していき、その後、週2回ほど葉面追肥を行い栄養を与えて様子を伺いながら生育促進に努めています。

11月に収穫予定のねぎの世話も行いつつ、農人たちにとって何かと忙しい時期。稲刈りシーズンでもあり、毎日どこかしらで稲刈りが行われ、日々景色が変わっていくことが、忙しさの中でも秋を感じています。近隣農家の方の邪魔にならないよう



畑によっては荷台が入りにくい場所もあります。収穫後のもうひと踏ん張り!

に作業予定を変更することもあるので、仕事が終わる頃には気付けば真っ暗になっていることも多いです。ただ、夏の頃と比べると農人にとっては働きやすい気候で、畑のねぎたちにとっても良い環境にはなっています。この1ヶ月で日増しに冬に向かうので、これからの生育に期待している心持ちです。

とある日の農人日記。

美山では最低気温が10℃を切る日が多くなり、季節の変わり目を感じています。年々、体感としても春や秋が短く、夏の期間が長く、栽培には難しい気候になってきているなど感じます。(美山エリア・大牧)



高校生の方達が農業体験で美山に! 普段、畑にいらることが多く、接する機会が少ない農人たちにとって幸になりました。

